

2024年2月15日

カナダ NMG 社への出資ならびに黒鉛供給契約締結により 車載用リチウムイオン電池材料の北米での現地調達戦略を加速

～鉱山採掘から負極材加工までの一貫生産事業を開発、
低環境負荷のサプライチェーン確立を目指す～

パナソニック エナジー株式会社（本社：大阪府守口市、取締役社長：只信一生、以下 当社）は、電気自動車（EV）用リチウムイオン電池の負極材料である天然黒鉛について、北米でのサプライチェーン確立を目的に、かねてより協議を進めていたカナダの負極材メーカー [Nouveau Monde Graphite Inc.](#)（本社：ケベック州サンミシエルデサン、社長：Eric Desaulniers、以下 NMG）に対して、このたび同社への出資を決定し、また 7 年間のオフテイク契約（長期供給契約）を締結しました。出資については、当社より 25 百万米ドルを出資し、別途、三井物産株式会社（本社：東京都千代田区、社長：堀健一、以下 三井物産）は、同社が保有していた NMG の転換社債に代えて 25 百万米ドルの株式を取得します。その後、共同出資者とともに、出資者間で合意した出資比率を上限として、150 百万米ドル相当の後続出資を予定しています。

当社は、世界規模で拡大する EV 需要に対応するため、北米での車載電池の生産拡大ならびに、材料の現地調達比率の向上や持続可能なサプライチェーンの構築に向けて取り組んでいます。NMG とは、2022 年 10 月にオフテイク契約に関する覚書を締結しており、その後、北米での黒鉛一貫生産事業開発に向けて、当社の製品仕様と品質基準を満たす技術開発とプロセスの最適化を進め、今般オフテイク契約の締結に至りました。

NMG は、同社が保有するケベック州のマタウィニー鉱山で採掘された黒鉛を精製し、同州ベカンクールにある電池材料工場において負極材を生産するという“鉱山から材料まで”を一貫して北米で行う負極材メーカーであり、北米での現地調達比率向上を目指す当社にとって理想的なパートナーです。また、カナダでは電力の再生可能エネルギー由来比率が高く、同鉱山のあるケベック州では供給電力の 99% を再生可能エネルギーが占めています。環境負荷の低い NMG の黒鉛材料を活用することは、北米での電池サプライチェーンの強靱化という意味だけでなく、2030 年度にカーボンフットプリント^(注1)を 2021 年度比で半減するという当社の目標に向けて重要な意味を持ちます。

日本とカナダの両政府は、2023 年 9 月に蓄電池のサプライチェーンに関する協力覚書を締結しています。二国間の協力関係が強化される中、世界第 2 位の新車販売数を誇る米国を含む北米市場において、EV の航続距離向上を実現する高品質かつ高容量な電池を生産・提供することで、当社は世界の EV 普及に貢献します。同時に、電池開発・製造の優れた技術と豊富な経験で、今後もリチウムイオン電池業界の成長を牽引するとともに、多様なパートナーシップによりゼロエミッション実現に向けた取り組みを加速していきます。

(注1)カーボンフットプリント：原材料調達から廃棄・リサイクルまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガス排出量を CO₂ 換算で表した数字

以上